

総合支援学校 高等部
保健体育

キーワード 情報モラル
コミュニケーション支援

『『出会い系サイト』の怖さを知ろう』

1 単元の学習

単元目標

- 安全なインターネットの利用について考えさせる。
- 「出会い系サイト」の問題を理解させる。
- 自分の個人情報をむやみに第三者に漏らさないようにする。

対応する学習指導要領の内容

教科・領域等	内容等
保健体育 (知的障害の生徒を教育する場合)	<ul style="list-style-type: none"> 心身の発育や発達に関心を持ち、生活に必要な健康や安全に関する事柄を理解する。 心身の発育・発達や生活に必要な健康・安全に関する事柄を理解し、実際の生活に生かす。
情報 (知的障害の生徒を教育する場合)	<ul style="list-style-type: none"> 情報の取り扱いに関するマナーや決まりについて理解し、実践する。

2 指導略案

単元指導計画

指導内容等	時間
毎日の生活と健康について考えよう	1時間
「出会い系サイト」の危険性を理解し、インターネットの健全な利用の仕方を知ろう	(本時) 1時間
男女の違いと役割、かかわり方について考えよう	1時間

本時の目標と展開

【目標】

- 「掲示板・チャット」の擬似体験を通して、出会い系サイトの様々な問題を理解させる。
- マンガ等の資料から、自分の個人情報を漏らさないなど、身を守るためのルールを理解させる。

【展開】

学習活動	教師の働きかけと指導上の留意点(情報機器・教材の活用)
「出会い系サイト」について、知っていることを話したり、資料を見たりする。	<ul style="list-style-type: none"> 話合いの形で「出会い系サイト」の生徒の体験や知識を聞き取る。 情報モラル研修教材を使って擬似サイトをプロジェクターで提示し、「出会い系サイト」とはどのようなものなのかを知らせる。 「コミュニティサイト」など、趣味や仕事の仲間を探す目的のサイトもあることを伝える。
「出会い系サイト」の事例を見て、何が問題なのかを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 「出会い系サイト」によるトラブルや事件を事例として紹介する。 「出会い系サイト」の怖い部分等について、自由に感想を言わせる。 「ネット社会の歩き方」レッスンキットプレゼンテーション資料「ネット上の危ない出会い」を使い、自分ならどうするか意見を出させる。
コンピュータ用コンテンツによる擬似体験から問題点を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラル研修教材(掲示板・チャット)の擬似体験から、「出会い系サイト」の問題に気づかせる。 一度も会ったことがないのに、いい人だと思ってしまう。 名前も性別も年齢も簡単に偽ることができる。 文字だけで相手を信用してしまう。
どういうところに気をつければよいのかを知る。	<ul style="list-style-type: none"> 擬似体験では、どこがいけなかったのかを具体的に考えさせる。 生徒が自身の情報や今度会う約束を入力するように教師が意図的に誘うようにする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の個人情報を書き込んだのがいけなかったことに気付かせる。 ・ネットワークを通じて知り合った人とむやみに会う約束をしたのがいけなかったことに気付かせる。
「出会い系サイト」の資料を見ながら、身を守るためのルールをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・4コママンガ等を使った資料を全員に配布し、身を守るためのルールを学ばせる。 ・資料に警察官の載っているイラストを使用することにより犯罪に関わっていることをイメージとして伝える。



3 展開の実際

【対象学年・児童生徒】

高等部1年生で、自力通学したり、携帯電話を使用したりしている生徒10名を対象に指導した。本時は、性教育の指導として、「出会い系サイト」について取り上げる中で、情報モラルの内容を取り扱った事例である。

【コンテンツ】

情報モラル研修教材（独立行政法人 教師研修センター）

「ネット社会の歩き方」レッスンキット プレゼンテーション資料

（「情報モラル」指導実践キックオフガイド <URL <http://www.cec.or.jp/net-walk/>>）

【配布用資料】

サイバー犯罪対策 出会い系サイトにかかる犯罪予防ホームページ

（警視庁 <URL <http://www.npa.go.jp/cyber/deai/index.html>>）

4 情報機器等の活用の工夫

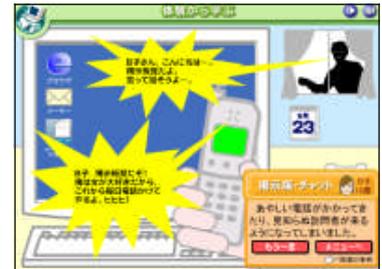
【危険性の理解と防止】

名前を隠して異性と知りあうことのできる「出会い系サイト」の利用が、援助交際や凶悪犯罪等の被害につながるケースが増えている。そこで、「出会い系サイト」の危険性を理解し、健全な利用ができるように指導する必要があると考えた。

コンピュータを使って実際のサイトと同じような疑似体験することにより、インターネットでの様々な問題点や危険性を身近な問題として生徒に考えさせることができた。

また、コンピュータ上でイラストや動画などを用いた疑似体験できる教材を使用することで、現実感を持たせ、分かりやすく生徒に問題点を伝えることができた。

警視庁のサイバー犯罪対策「出会い系サイトにかかる犯罪予防ホームページ」を参考に作成した4コママンガ形式の資料を使用することにより、警察のイラストから犯罪に関わっていることをイメージとして伝えるとともに、身を守るためのルールを分かりやすく学ばせることができた。



5 情報機器等の活用の効果

【「見ない」「書き込まない」「会わない」を身に付けるきっかけに】

「出会い系サイト」に関する生徒の興味関心は高く、意欲的に授業に参加していたが、「出会い系サイト」を報道等で耳にしたことがあり、「やっちはいけない。」「悪いことだ。」という程度の理解に留まっていた。

「出会い系サイト」による生徒の犯罪被害防止のためには、サイトを「見ない」「書き込まない」「絶対に会わない」の3つを徹底する必要がある。そのためには、「出会い系サイト」がどういうものなのか、何がいけないのかなどを、生徒に十分考えさせることが大切である。

本事例で、コンピュータを利用することにより、疑似サイトや事例、疑似体験から具体的な情報を得ることができた。また、犯罪に関わっている重大な問題であることも効果的に伝えることができた。いくつかの事例を疑似体験しながら授業を進めていくうちに、生徒は互いの発言の中から、「出会い系サイト」の問題点や、自分たちが気を付けなければならないことなどに気付き始めていた。

今後は、日常生活におけるインターネット利用に関するアンケートの実施によって、本時の学習内容の定着を測るとともに、失敗の事例からトラブルを避ける方法を考える活動を繰り返し行うことで、情報社会に参画する態度を育てていきたい。

